

ダイ改阻止・動労総連合建設へ

前進

週刊

発行所 前進社
編集・発行人 城戸通隆
本社 東京都江戸川区松江
1-12-7 振替 00190-0-88857

ホームページ
http://www.zenshin.org/

速報版

2015年第2号
(2ヶ月100円)

通常号6ページ
本体300円+税
購読料(送料別)

開封/密封
1ヵ月 1512円 (170/416)
6ヵ月 9072円 (1020/2496)
1年 18144円 (2040/4992)

神奈川支社 横浜市南区高砂町1-10-38
振替00220-8-75016
関西支社 大阪市天王寺区寺田町2-1-19
中国支社 広島市南区宇品西1-2-36
振替01360-5-30027
九州支社 福岡市博多区半道橋1-7-22
振替01700-6-105428

反帝国主義・反スターリン主義の旗のもと
万国の労働者団結せよ!
革命的共産主義者同盟
全国委員会

現代革命への挑戦

上巻定価2300円+税
下巻定価2400円+税

国鉄分割・民営化の不当解雇から28年

2・15労働者集会 全国10力所で



全国運動結成から41年半、参加者はさらなる飛躍を決意し団結カンパニー(2月15日 東京・すみだ産業会館)

東京は630人が会場埋める

侵略戦争阻む労働運動

動労千葉の佐藤正和特別執行委員が司会を務め、不当解雇から28年、動労千葉の分割・民営化反対ストから30年、われわれは不屈だと宣言して集会が始まった。

開会のあいさつに立つた国鉄闘争全国運動呼びかけ人の鈴木達夫弁護士は「安倍は中東侵略戦争を軸に階級的労働運動の提議をつくり、全面的な反撃に立つ決意を固めた。」

労働組合の力とり戻す

動労千葉の田中宏委員長は、「86年2月、動労千葉は煮えたる怒りの中で分割・民営化反対の第2波ストに立った」と振り返り、「1047名闘争は戦後最長の労働組合の力を取り戻すための闘いだった」と述べた。



上から、国鉄闘争全国運動呼びかけ人・伊藤晃さん、動労千葉・田中宏委員長、動労水戸・石井真一委員長

国鉄分割・民営化で不当解雇から28年 2・15労働者集会



動労総連合の青年労働者を先頭に決意表明。とりわけ昨年12月に動労水戸に加入した會澤憲一さんの登壇に、会場全体から惜しい拍手が送られた

解雇撤回必ずやちとる

最高裁勝利判決戦後へ向け、動労千葉顧問弁護団の葉山岳夫弁護士が報告し、署名の力が最高裁反動判決を阻んでいることを明らかにした。

また、動労千葉組合員が最初JR採用候補者名簿に載せられていた事実、手正取・葛西線から国鉄幹部とJR設立委員長の高藤英四郎が共謀して行ったことを振り返り、「俺たちは全労働者の命を懸けて闘っている。命の限り闘い続ける」と言い切った。



上から、最高裁決戦勝利へ決意を語る葉山岳夫弁護士、闘争団、10万署名運動へ、動労千葉の森山、銚子、木更津の各支部長、動労連青高崎の漆原副委員長が発言

青年先頭に組織拡大へ

動労総連合の青年組合員が決意表明の口火をきき、動労千葉支部の木村雄作さんと動労水戸の照沼靖功さんが、組織拡大の先頭に青年が立つと表明、動労水戸に加入した會澤憲一さんは「ここに業種・職種を超えてこれだけの人が集まっているのはすごいことだ。動労水戸組合員として頑張りたい」と発言した。

動労千葉総決起集会

3月13日(金)午後6時
千葉商工会議所14階第一ホール
(千葉市中央区中央2-15-1)

被曝労働拒否をたたかう

3月15日(日)午後1時
オラム地下(随フ・サル・ローヤル)
(東京都台東区東上野1-26-2)

革共同第7回全国大会開く

激動する情勢に立ちむかう歴史的な大会

革命的共産主義者同盟は1月下旬、歴史的な第7回全国大会を開催し、大恐慌と戦争をプロレタリア世界革命に転化するための、時代認識と路線ならびに党の組織体制を圧倒的に確立しました。そして、2010年代中期の階級決戦を世界革命の突破口を開く闘いとして、1917年のロシア革命を現代の日本によみがえらせる闘いとして実現することを固く誓い、その実践に猛進と突入しました。

革命的共産主義運動の新たな出発点築く

2001年の第6回大会から14年にわたる格闘をへて、今回ついに戦取された第7回大会は、全党の同志の血と汗の苦闘によって闘いとられた革命的共産主義運動の新たな出発点であると言つてことができます。

とりわけ06～08年の「党の革命」と09年の綱領草案採択の上に昨年、革共同の50年史(『現代革命への挑戦』)上巻)の刊行をもって革共同の半世紀を超える闘いの歴史の全面的な総括をやりぬいたこと。これと並んで、大恐慌と「3・11」情勢に真っ向から立ち向かってきた階級の労働運動の実践が、「党と労働組合の一体的建設」として、2014年の闘いをおしてひとつの巨大な飛躍をもぎとる地盤を切り開いたことが決定的でした。この二つを土台にかけられた7回大会は、1917年のロシア革命を準備した1912年のボルシェビキ党のプラハ協議会にも匹敵するといえる、歴史的意義をもっています。

党と階級の不拔の団結かちとろう

大恐慌・戦争を世界革命勝利へ 中期階級決戦に本格的に突入

これを受けて、全国各地から代議員として大会に結集した多くの同志、とりわけその過半数を占める労働者同志が、先を争って次々と発言に立ちました。労働者同志は、日帝・資本と帝国主義労働運動との戦場での激突の中からつかみとった確信や教訓を生かすことと語り、全党に今、どのような飛躍が問われているかを自分自身の決意とともに提起しました。学生の同志は、戦闘的で大衆的な全学連運動を今こそよみがえらせ、戦争・改憲阻止の先頭に立つという決意を表明しました。報告と討論をおして時代認識と路線が圧倒的に深められ、突破すべき課題が明確にされ、21世紀の現代革命実現に向けて全党が一丸となって総決起する、燃えるような意思一致と団結がかけつけられました。

大会はさらに、①国鉄決戦勝利への決議を筆頭に、②革命的選挙闘争の前進、③「前進」1万人読者網建設と非合法・非公然的の党建設、④全学連運動の歴史的爆発、⑤単一の党建設のもとでの全戦線での闘いの前進、⑥星野文昭同志の即時尊厳、⑦国際連帯強化の7本の特別決議を満場の拍手で採択しました。そして党の中央指導体制を強化し、2015年の決戦へ勇躍して躍りこむことを誓い合いました。

現代革命論を深化し勝利への路線を提起

第一に、現在の情勢を、大恐慌の激化と戦争突入の時代として明確にし、そのプロレタリア世界革命への転化がもはや待たなしに求められているという時代認識で徹底的に武装し、一致をかちとったことです。

大会は第1報告で、この点を革命論として全面的に明らかにしました。

一つは、大恐慌論の深化です。現在の世界大恐慌は、資本主義・帝国主義の最末期の延命形態である新自由主義の最後の破産と崩壊によって引き起こされている。しかも今日、米帝を先頭に繰り広げられてきた恐慌対策はすべて破産し、「恐慌の中の恐慌」と言うべき二層深刻な段階に突入している。その核心には膨大な過剰資本・過剰生産力があり、資本主義の生産関係の枠内ではもはや、この矛盾を絶対的に解決できないことを明確にしました。

労働者階級の団結が全世界を変革する力

第1報告はこれらの点を明確にした上で、1974～75年恐慌以降の帝国主義をあらためて「新自由主義的帝国主義」と規定することによって、新自由主義論をさらに深めました。すなわち新自由主義とは帝国主義にとって代わる資本主義の新しい段階ではない。そうした生命力はもはや完全に失われている。そもそもそれ以前の国家独占資本主義的帝国主義は、1917年ロシア革命で開始されたプロレタリア世界革命へのうねりを圧殺するために帝国主義が不可避にたつた延命形態でした。ロシア革命を变质させたスターリン主義の裏切りがそれを支えたのです。しかし、この国家独占資本主義が最終的に破産した結果、労働者階級に対するむきだしな反革命として登場してきたのが新自由主義的帝国主義です。

6回大会の総括行い到達した地平を確認

7回大会は第二に、第2報告をおして、6回大会以降の闘いの全面的な政治的・路線的・組織的総括を行いました。とりわけ階級の労働運動路線への反対派を打倒した「党の革命」で革共同自身が労働者階級の党として生まれ変わった地平に立って、6回大会のもつ限界をはっきりさせ、それを突破して進んできた今日の到達地平を「党と労働組合の一体的建設」として、あらためて明確にしたことです。

動労総連合突破口に闘う労組拠点建設へ

7回大会は第三に、一切の実践的結論は2010年代中期階級決戦の大爆発にあり、闘う労働組合の拠点建設の飛躍的前進にあること、「動労総連合を全国に」の国鉄決戦こそその勝利を開く最大の突破口であることを、断固として確認しました。

2015年から本格的に始まる中期階級決戦は、労働者階級人民にとって、帝国主義ブルジョアジーにとっても、生きるか死ぬかをかけた決戦です。世界戦争情勢の激化の中で日帝・安倍政権は今や、「戦後レジームからの脱却」を掲げて全面的な階級戦争と侵略戦争への突進を開始しています。これに対して青年労働者を先頭とする全労働者の根源的な怒りが解き放たれ、搾取と収奪への怒り、戦争への怒り、福島原発の怒り、沖縄の怒り、農民の怒り、全人民のあらゆる怒りがせきを切って噴出しようとしています。これらのすべてをひとつに結集し、安倍政権を打倒し、さらにプロレタリア革命へ向かって進撃する巨大な力へと発展させることができるのは、闘う労働組合のもとに自己を組織し団結した労働者階級の革命的な決起です。

労働者指導部建設の圧倒的前進かちとる

その特徴は、労働組合と労働運動の撲滅、労働者階級のあらゆる団結の徹底的な解体にあります。この階級戦争による労働者階級人民の極限的な犠牲の上に、「握りの大資本が最後の延命を図ろうとするものです。そして今や彼らは全世界の労働者を強権・強労働と貧困の地獄にたたき込むだけだなく、社会そのものを崩壊させ、ついには人民大虐殺の戦争にのりだしています。万国の労働者の「生きさせろ！」の団結と総決起をもって、大恐慌と戦争をいよいよ反帝国主義・反スターリン主義プロレタリア世界革命に転化する時が来たのです。

イスラム武装勢力による1・7パリ内戦の歴史的総括をやりぬき、その完全勝利を断固として宣言し、その地平の上に21世紀革命に向けた本格的挑戦ののりだすことを確認しました。しかし6回大会は、この挑戦がまさに階級の労働運動路線を軸にしてこそかちとられるという点で、全党の一致を組織できず十分なものを残しました。

7回大会はこのことを鮮明にし、労働組合と労働運動をめぐる大党派闘争に勝ち抜いて、職場生産面に革命派の拠点を無数につくりだしていく中にこそ、現在の革命的な情勢を本物の革命に転化する最大の鍵があることを圧倒的に確認しました。

それは党と労働組合の一体的建設の闘いであり、階級の指導部を建設していく闘いそのものです。7回大会が、労働者同志が会場の過半を占める画期的な大会としてかちとられ、また党の中央指導体制が労働者指導部を中心にすえた体制として圧倒的に強化されていることは、この間の闘いの大きな前進を示すものにほかなりません。

革命的共産主義者同盟第7回全国大会

報告・決定集

季刊 2015.2
共産主義者 NO. 183



A5判240頁
定価：本体1300円＋税

ブックサービス (0120-29-9625
http://www.bookservice.jp/) で購入できます。

開催にあたって
革命的共産主義者同盟政治局

●第1報告

大恐慌は戦争に発展—
革命情勢が全世界で到来

反帝・反スターリン主義
世界革命戦略と世界大恐慌論

●第2報告

6回大会以降の党の歩みと
中期階級決戦の展望

2010年代中期階級決戦に勝利し
反帝・反スターリン主義プロレタリア
世界革命へ、労働組合の拠点建設を

◆特別報告1

壮大な構想で階級的
労働運動の拠点建設を

◆特別報告2

中期階級決戦の核心課題
—動労総連合を全国に

◆決意表明

- ① マルクス主義青年労働者同盟中核派の闘う決意
- ② マルクス主義青年労働者同盟の闘う決意

◆決議

- ① 国鉄決戦貫きプロレタリア世界革命勝利
- ② 革命的選挙闘争の大前進を
- ③ 「前進」読者網と非合法・非公然的の党建設
- ④ 全学連運動の歴史的爆発へ
- ⑤ 全戦線の闘いで飛躍と前進
- ⑥ 星野文昭同志の即時尊厳を
- ⑦ 労働者階級の国際連帯強化

●年表

第7回大会への闘いの歩み

革共同政治局の
2015年1・1アピール

大恐慌・戦争を 世界革命へ

国鉄・反原発・安保決戦の
爆発かちとり、動労総連合を先頭に
労組拠点の建設を

大恐慌・戦争を革命へ

〔声明〕中東・欧州・全世界人民に訴える

2015年1月、革共同は歴史的な第7回大会を開催しました。その報告・決定集をもって『共産主義者』のリニューアルスタートとします。